

**作品 2008-2014**

**blocks** (2008〜) C-print

街のスナップ写真から風景の構成要素を抜き出し、おもちゃの積み木で再現したものをフォーカスをぼかして撮影した作品

**toy bird** (2008〜) C-print

おもちゃの鳥と色紙を机上に構成して撮影した作品

**plastic tree** (2008〜) C-print

おもちゃの木と色紙を机上に構成して撮影した作品

**GOLD SEES BLUE** (2009〜) C-print

金箔をフィルターとして、金箔の透過光 (青色の光) あるいは反射光 (金色の光) で森を撮影した作品

**pastels** (2009〜) C-print

パステルを机上に構成し、様々なフォーカスで撮影した作品

**mirrors** (2009〜) C-print

複数で構成された鏡の反射とそれに映る色を撮影した作品

**white sculptures** (2009〜) C-print

白く塗られた板とパステルで彫刻を作り、それを撮影した作品

**shadow traces** (2009〜) pigment print

花瓶に挿した花に光をあて、壁に映る影をパステルでなぞり、それを光源の角度を変えながらくりかえし、最後に花瓶を抜いた状態で、壁を撮影した作品

**Untitled Composition** (2011〜) C-print

廃校に残されたかつての生徒が描いた絵画を、コンピュータでモザイク化し、それを再構成し、自然光の下で再撮影した作品

**after still** (2011〜) C-print

カメラを使用せず、スキャナーと色紙を用いて絵画を描いた作品 (クリフォード・スティルへのオマージュ)

**land** (2012〜) pigment print

飛行機の窓から地表を撮影した写真を、コンピュータで着色しプリントアウトし、手でクシャクシャにしたものを構成した作品 (ジョン・チェンバレンへのオマージュ)

**2+C** (2011〜) C-print + pigment print

ゆるやかに関連する 2 枚のスナップショット写真と、カラーフィールド (色面) を組み合わせた作品

**ghost of modern art** (2012〜) pigment print

ネット上のアーカイブにある近代美術のマスターピースの画像を、インクジェットプリンターにより乾かない状態でプリントアウトし、それをフィジカルに手や鉛筆などで抽象化した作品

**blocks (light)** (2013〜) C-print

blocksシリーズ (2008〜) の続編

自作しペイントしたブロックを構成し、著しくフォーカスはずして制作した作品

**(ZOO)** (2013〜) C-print

動物園で撮影した動物などの写真を、コンピュータでモザイク状に加工したものを再構成し、自然光の下で再撮影した作品

**high & dry** (2014〜) pigment print

日常のスナップショット写真をインクジェットプリンターで乾かない状態でプリントアウトしたものを、手や鉛筆でフィジカルに抽象化し、それを様々な光の環境下で再撮影した作品

## 田中 和人

tanaka kazuhito

1973 埼玉県生まれ

1996 明治大学商学部卒業、会社勤務を経て2000年渡米

2004 School of VISUAL ARTS ( ニューヨーク) 卒業

2005 帰国

現在、京都を拠点に活動中

**賞 歴**

2006 トーキョーワンダーウォール 入選

2007 mio 写真奨励賞 入選

2011 TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD 2011 受賞

**個 展**

2008 「link」 Port gallery T (大阪)

2009 「青い絵を見る黄金の僕」 Port gallery T (大阪)

2010 「GOLD SEES BLUE」 Gallery Antenna (京都)

― 「GOLD SEES BLUE \_ KYOTO」 Gallery PARC (京都)

2012 「Untitled Composition」 Maki Fine Arts (東京)

2013 「(ZOO)」 Maki Fine Arts (東京)

― 「blocks」 SUNDAY (東京)

**グループ展・アートフェア**

2004 「MENTORS」 VISUAL ARTS gallery (ニューヨーク)

― 「AAF Contemporary Art Fair」 ピア92 (ニューヨーク)

2006 「トーキョーワンダーウォール2006」 東京都現代美術館

2007 「mio 写真奨励賞2007」 ミオホール (大阪)

― 「DOOR 2007」 Port gallery T (大阪)

2008 「Cabinet library」 Port Gallery T (大阪)

― 「DOOR 2008」 Port Gallery T (大阪)

2009 「京都現世美術館」 建仁寺 (京都)

2010 「Cabinet library」(二人展) Port Gallery T (大阪)

― 「西宮船坂ビエンナーレ」(兵庫)

― 「Photo Taipei 2010」 Sunworld Dynasty Hotel (台北)

2011 「THE PHOTO / BOOKS HUB, TOKYO」 表参道ヒルズスペースオー (東京)

― 「multiple」 PRINZ (京都)

― 「KYOTO APERTO」 open studio (京都)

― 「PROMISED LAND」 Maki Fine Arts (東京)

2012 「アプストラと 1 2 人の芸術家」 大同倉庫 (京都)

2013 「レッド、ブルー、グリーン」 Maki Fine Arts (東京)

― 「TSCA Rough Consensus」 Hotel Anteroom (京都)

― 「light and blindness」 Maki Fine Arts (東京)

― 「のせでんアートライン 2013」(兵庫)

2014 「NEW INTIMACIES / ニュー・インティマシー 親密すぎる展覧会」 Hotel Anteroom (京都)

― 「Summer Show」Maki Fine Arts (東京)

**展覧会企画**

2012 「アプストラと12人の芸術家」 大同倉庫 (京都)

2013 「レッド、ブルー、グリーン」 Maki Fine Arts (東京)

2014 「NEW INTIMACIES / ニュー・インティマシー 親密すぎる展覧会」 Hotel Anteroom (京都)

**コレクション**

amana photo collection

## 「high & dry」

「high & dry」の作品の一例

この展覧会では、最新作「high & dry」シリーズが、これまで制作されてきたいくつもの作品シリーズ (未発表作品や習作を含む) と混在した形で展示される。これまでの自身の作品を、再構成し、相関の中から、新作への意志を表出させる試みだ。

僕は「抽象」というものに強く魅かれている。とりわけ、新造形主義、抽象表現主義、ミニマリズム。「絵画」のダイナミックな抽象の歴史。「絵画」への限りない憧憬が僕にはある。しかし、新しい「抽象」とはなんなのだろう。

新作「high & dry」は、自ら「wet inkjet painting」と名付けた技法 (写真をインクジェットプリンターで乾かない状態で出力し、その表面を手や筆を使ってフィジカルに抽象化する方法) をもとに「絵画」的な「写真」、あるいは「写真」的な「絵画」(もしくは、その両方) を制作、さらにそれを様々な光の環境下で再撮影した作品だ。

ここでは、「絵画」と「写真」が等価に、そして、お互いがお互いを照射するものとして存在する。その関係性は時に「補完しあう関係」であり、時に「欠落させあう関係」であり、それらは、相反するものとしてではなく、揺らぎながら重なり合うものとして提示される。「絵画」と「写真」の差異ではなく、同一性として。僕はその「同一性の揺らぎ」の中に新しい「抽象」を見いだそう。

この「high & dry」を含め10シリーズを超える作品が、ひとつのギャラリー空間に構成される。

ここで、もうひとつの問いが立ち上がる。「作品」とは、あるいは「新作」とはなんなのだろう。

すべてのシリーズは、互いに影響しあい、シリーズ別でも、年代順でもない、新しい繋がりを示すことだろう。

新作が、この相関の中で、過去と現在を自由に行き来するのもいいのではないだろうか？

その状況へ開かれていること。部分としての作品と、全体としての作品が、固定されず、空間を創出すること。予想出来ないアクシデントの予感の中で。

「絵画」と「写真」、あるいは「新作」と「過去作」が対峙するものとしてではなく、その区分けが透明化された状態から浮かびあがってくるもの。

僕が今、求めて止まない現時点の「抽象」がここにある。

田中 和人

田中和人 (1973年・埼玉県生まれ) は、2004年にSchool of Visual Arts (N.Y.) を卒業後、京都に拠点を移し、写真作品を中心に制作・発表を続けています。2007年に『mio 写真奨励賞』入選、2011年には『TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD 2011』を受賞するなど、写真領域での活動と評価に加え、近年では展覧会企画などにも積極的に取り組むなど、横断的な制作・展開による活動を続けています。

田中にはおもに「具象と抽象」あるいは「写真と絵画」の「境界」をテーマとしており、これまでの作品からはその一貫した興味を明確に見ることができません。

色鮮やかな玩具のブロックをボカシて撮影した《blocks》(2008〜) のシリーズは、そこに平面的な色面構成の妙とともに、都市空間のようなイメージをも描き出し、金箔をフィルタとして風景を撮影し、そこに青白い光に満ちた世界を描き出した《GOLD SEES BLUE》(2009〜) は、写真をドキュメンタリーから解放するとともに、イメージを具象と抽象の狭間にとどめ、そこに現実と紐づいた絵画的・抽象的な世界の姿を表出させています。《Untitled Composition》(2011〜) ではそれまでのフォーカスやフィルタといったアナログ的なアプローチに加え、デジタルによるモザイクや拡大と構ったアプローチにより対象の分解・再構成を試み、《after still》(2012〜) においてはカメラの代わりにスキャナーを用いて、光と色をまるで絵画を描くかのように扱っています。

またここに内在している「抽象化・デジタル・分解と再構築・絵画と写真の領域」といった諸要素は、既存の絵画作品の画像をインクジェットによって特殊紙にプリントし、そのインクが乾かないうちに絵筆で直接画面に介入し、そこに絵画と写真、具象と抽象の狭間に起こるモーメントを写真として定着させた《Ghost of Modern Art》(2012〜) から、新作となる《high & dry》へと展開しており、田中にとってこれまでの作品に見られる個々の興味と探求は、都度の気付きを次の新たな着眼点としながら、同時期や以後の作品に引き続き指向され、補完的・発展的に展開しているものといえます。

関西では久しぶりの個展となる本展は、その新作《high & dry》を中心に、これまでの13〜15にわたるシリーズから100点以上の作品によって構成するものです。ミクロ的には新作《high & dry》において新たに・再び試行されている「具象と抽象」「写真と絵画」をめぐる探求の差異と進化について。マクロ的には一貫したテーマへの取り組みであるこれまでの作品群において、それらを「同一性の中の揺らぎ」として俯瞰し、その共振により現われた波紋をこそ、田中和人の現時点での「抽象」として示すものです。田中のテーマへの探求とその可能性を見る本展では、「絵画」と「写真」あるいは「新作」と「過去作」といった「相対」の構造は消失し、すべてはより複雑に、よりシンプルな「総体」となって空間に展開されることとなります。

# h i g h & d r y

t a n a k a k a z u h i t o

N o v e m b e r 14 SUN 2014 11 AM → 7 PM

high & dry : 田中和人展

2014年11月14日 | 金一 30日 | 日 11:00 - 19:00 ※オーブニングイベントは14日 18:00~

月曜日休廊 / 金曜日20:00まで / 最終日18:00まで 協力 = Maki Fine Arts

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町舟渡石町48 三条あひちビル

tel/fax ☐ 07-5-231-0706 e-mail ☐ info@galleryparc.com http://www.galleryparc.com

Gallery **P A R C**  
GRAND MARBLE

